イベントレポート
全日本リレー2003
2003年11月23日

女子ベテラン王座は愛知県

木村佳司

先日行われた全日本リレー大会より、女子ベテランクラスが新設された。
初代の女子ベテランクラスを制したのは愛知県だった。

まずは結果

男子選手権

1	茨城県	3:15:02
2	愛知県	3:15:23
3	東京都	3:17:43
4	神奈川県	3:23:00
5	宮城県	3:30:19
6	東京都 2	3:33:36

女子選手権

1	埼玉県	2:54:08
2	東京都	3:03:14
3	京都府	3:07:35
4	茨城県	3:10:10
5	神奈川県	3:14:55
6	千葉県	3:24:58

男子ジュニア選手権

1	宮城県	1:39:55
2	埼玉県	1:48:47
3	茨城県	1:49:52
4	愛知県	1:56:00
5	千葉県	1:59:11
6	東京都	2:03:23

女子ジュニア選手権

1	京都府	2:25:48
2	宮城県	2:31:36
3	東京都	2:33:33
4	神奈川県	2:35:29
5	茨城県	2:43:47
6	千葉県	2:49:24

男子シニア選手権

1	埼玉県	1:44:49
2	千葉県	1:50:10
3	東京都	1:53:36
4	神奈川県 2	1:54:55
5	福島県	1:55:35
6	神奈川県	1:59:50

女子シニア選手権

1	東京都	2:21:25
2	神奈川県	2:33:44
3	埼玉県	2:46:38
4	静岡県	2:52:35
5	茨城県	2:55:18

男子ベテラン選手権

1	愛知県	2:04:29
2	神奈川県	2:05:20
3	三重県	2:12:47
4	埼玉県	2:14:21
5	茨城県	2:16:01
6	大阪府	2:24:17

女子ベテラン選手権

1	愛知県	2:23:24
2	神奈川県	2:45:13
3	埼玉県	3:07:12
4	福島県	4:18:40

男子ベテランに愛知2として参加した小野盛光。1 都道府県から複数チームエントリー したときのルールはまだ手探り状態だ。

愛知県男女ベテランを制する

若松リツ子・石田美代子・古澤久美。彼女たちの名前は各地の大会速報でよく目にする。長くオリエンテーリング競技を続けている人にとっては、ベテラン競技者としておなじみだ。

彼女たちが、全日本リレー選手権大会の女子ベテラン選手権の初代チャンピョンとして輝いた。

愛知県は男子ベテラン選手権でも見事優勝を果たし、男女あわせてベテランクラスを完全制覇した。

男子ベテラン愛知県は新家・河村・小幡の 3 名が迫る神奈川県を秒差で振り切った。

男子選手権は地元茨城県

男子選手権は地元の茨城県が優勝した。昨年の菅平高原での全日本リレー大会では痛恨の失格となり、2 位が幻に消えてしまっただけに、嬉しさは計り知れない。茨城県男子は実力があり、今回も本命候補と見られていたが、見事にその期待に応えてくれた。

茨城県はジュニア層を中心に、多くの選手をこの大会に送り込んでおり、今後も活躍が期待できる。ひとつ心残がかりなのは、今まで優秀な選手を輩出してきた筑波大学の部員が減少してきていることである。

今回の男子選手権茨城県選手はすべて筑波大学の出身であり、運営者にも多くの筑波大学出身者がいる。茨城大学も含め学生パワーの一層の充実を望みたい。

フィニッシュレーンを疾走する
海野とみ子（埼玉県女子ベテラン）

女子選手権は埼玉県

女子選手は安定した力を持つ埼玉県が優勝を掴んだ。女子では安定した 4 名のメンバーを揃えることが難しい。

各都道府県にはキラリと光る速さを見せるものもいる。しかし 4 名が揃わない。

現在、男女選手権は 4 人リレー、その他のクラスは 3 人リレーの競技形式を取っている。これをすべてのクラスにおいて 3 人リレー形式で行おうという動きも出ている。

特に3人リレーの影響を受けるのは、女子選手権クラスである。現在の日本のオリエンテーリング界において、女子選手層の薄さは深刻である。4 人でリレーを行う現在のルールにおいて、今回女子選手 4 名揃えてエントリーできたのは僅か 16 都道府県。時間内に完走できたのは僅か 10 都道府県。確かに上位は競り合いをしているが、その数は非常に少ない。

3 名リレー競技になれば、上位で競える都道府県も多少は増える。さらに重要なのは 3 名の選手を何とか揃えてエントリーしてくれる都道府県が増えることが期待できるということだ。

宮城/京都学生パワーだ

女子ジュニアは京都府が制した。京都は女子大学のクラブが活発な地域でもある。女子選手が切磋琢磨する環境のため、男女共学の大学からも優秀な選手を輩出してきた。このクラスではまだレース展開が不安定で、一発大逆転もある。各地域の選手も上位を目指してもらいたい。

男子ジュニアは宮城県が制した。宮城県男子ジュニアはすべて東北大学の学生。伝統的に東北大学は男子選手が強い。これまでも多くの優秀な選手を輩出している。宮城県と茨城県はこのクラスに 4 チームものエントリーがあり、ジュニア層の厚さを物語る。

埼玉/東京シニアを制する

女子シニアは最も選手層の薄いカテゴリである。結婚、子育てと生活環境が変わるなか、競技としてのオリエンテーリングを続ける人が少なくなっていることに加えて、優秀な選手は女子選手権に出場するからだ。

そのせいだろうか、女子シニアに関してはウイニングタイムが長いように思える。このなかで東京が優勝を勝ち取った。

一方で元気なオジサンたちで溢れる男子シニア。競技経験豊富な選手が多く波乱も少ない展開となった。その中で、メンバーを揃えた埼玉県が優勝を勝ち取った。

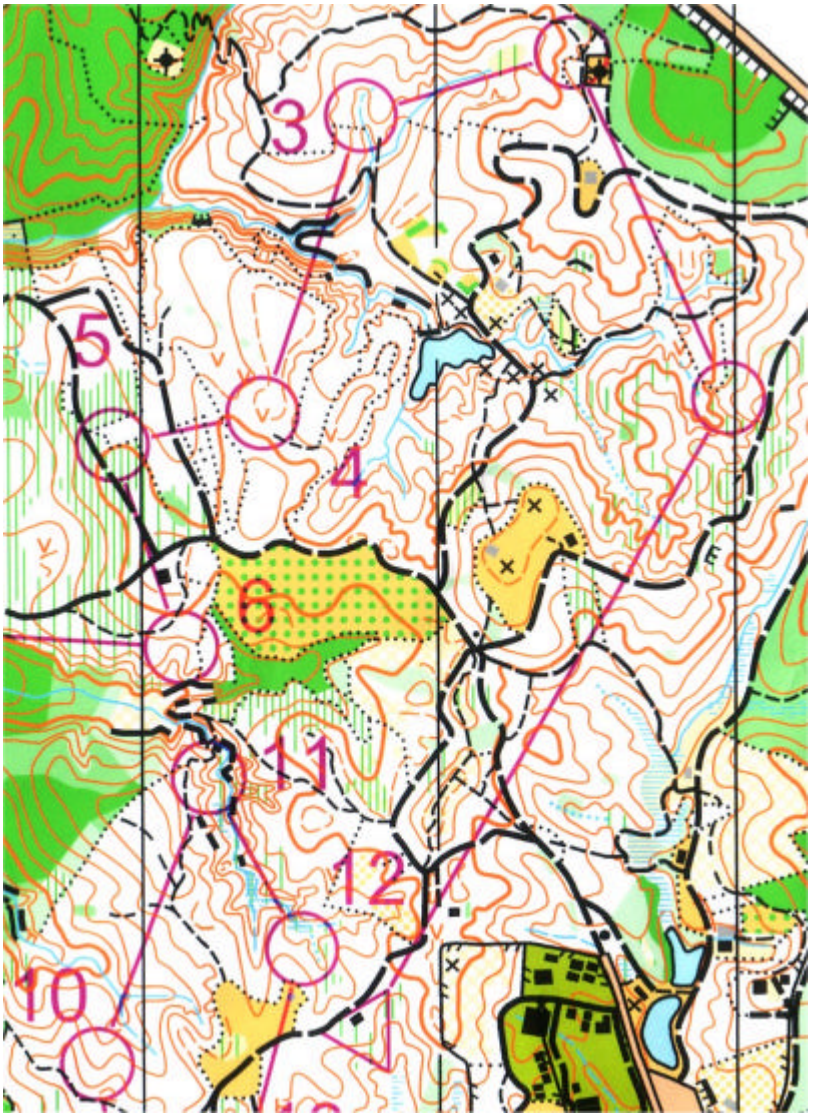
総合優勝は東京都
各年代クラスのポイントであらそう
都道府県対抗の総合成績も
全日本リレー大会の魅力のひとつ

変わる全日本リレー大会

今回から女子ベテランクラスが加わり、全日本リレー大会は男女ごとに「選手権（無差別）」「ジュニア」「シニア」「ベテラン」と年齢に応じたクラス分けが完成した。さらに昨年より各選手権クラスには各都道府県より複数の選手権クラスをエントリーできることになっている。

当初県別対抗のエリートイベントとして始まった全日本リレー大会であるが、エリートイベントとしての性格を保ちつつも、同時に生涯スポーツとして多くの参加者が目標とできるイベントへと昇華しつつある。

（木村佳司）



全日本リレー大会の地図 常陸戸村」茨城県那珂町）
通行可能度がよく、地形変化に富む丘陵地。
遊歩道などもあり、いろいろな参加者層に対応したコース設定ができる。ただし通行可能度の良い範囲はそれほど広くないので。ミドルコース向き。
全日本リレーではコースレイアウトにはさまざまな工夫が見られた。

イベントレポート
全日本リレー2003
男女優勝チーム

地元茨城と来年埼玉が制す！

藤城公久
田島利佳

昨年度、菅平高原で開催されたの全日本リレーでは痛恨の失格だった茨城県男子。しかしその悔しさをバネに、今度は地元開催の全日本リレーでは見事優勝の栄冠を勝ち取った。
来年度開催県の埼玉も女子で強さを見せつけ優勝。
どちらも、チームとしてのパフォーマンスを最大限に引き出せた結果だった。

藤城公久

（茨城県代表選手団監督兼 ME3 走）

やりました！！　茨城 ME、地元で念願の初優勝です！！
都道府県総合でも、やっと 3 年連続の 6 位から抜けだし 3 位入賞です（茨城県最高順位は第 8 回大会の 2 位）。

今回は、私自身は監督として、なるべく多くの茨城県オリエンティアに選手権クラスに出場してもらいたいと思いつつも、大忙しの運営者側にも人材を確保したいという思惑があり、選手決定には気を遣いました。しかし、補欠人員を極力減らしたことにより、大会前に骨折や打撲といった怪我に見舞われた方の代走を確保できず、無理を言って出場して頂く事態にもなってしまいました。こうした監督の不手際も多々ありましたが、茨城県は今大会最多の 12 チームが選手権クラスに出場しました。
事前に催した茨城県練習会&バーベキューでは、代表選手以外の茨城県内オリエンティアにも参加を呼びかけ、普段は話す機会も少ない他のクラブ員と、また、社会人と学生が親睦を深めることができてなかなかの盛況ぶりでした。毎年、監督をしていて思う全日本リレーの意義がまさにここにあります。県内クラブが一同に交流をもてる機会などそうそうありませんから。
というわけで、これが功を奏してくれたかどうかは定かではありませんが、ME 優勝、WE4 位、MJ3 位、WJ5 位、MV5 位、WS5 位と好成績を収め、万々歳です。

全日本リレーの運営に御骨折り頂いた小比賀さん、藤井さんはじめ茨城県協会の方々、運営して下さった方々に、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。
最後になりましたが、優勝を飾った茨城県 ME 出場選手のコメントを紹介させて頂きます。

佐々木良宜（1 走）

メンバー全員がそれぞれの役割をしっかり果たした結果であると思います。それぞれが役割を果たすことはどんなに難しいのか、また役割を果たして目標を達成したときはどんなにうれしいのか実感することができました。今年こそは優勝すると強く思っていただけに、その実感はより強いものとなりました。

高橋善徳（2 走）

皆さんの中にはたかが全日本リレーで何をあんなにはしゃいでいるのだ？と思った方のいらっしゃるかも知れません。茨城県チームはこのリレー大会のために練習会を開き，親睦会を開き，個々人としてでなくチームとして大会に臨むことを重要視してきました。地元開催ということもありましたが，それ以上に同じ地域に住み活動を共にする仲間達と全力を尽くしあう。そういう意識が少なくとも僕の中にはありました。だからあんなに嬉しかったのです。来年は規則の改正があれば茨城県では出場できない立場になりますが，同じように「チームとして」嬉しい気持ちを共有したいと切に願います。

藤城公久（3 走）

すべては３人のおかげです。ありがとう！！

小泉成行（4 走）

全日本リレーに茨城県として挑戦しはじめて４年目ですが１年目は惜しくも入賞を逃し、２年目は惜しくも３位を逃し３年目は惜しくも優勝を逃し、今度こそという気持ちでした。
メンバーも昨年まぼろしの優勝争いをした同じ４人に決まり、さらに今年は茨城県での開催ということもあり絶対に勝てるはず、と思っていました。

でも最終走者までもつれる争いになるとは思っていたので４走として、他県の選手に負けない走りをしてやろうと全日本リレーに向けたトレーニングを取り入れました。例えば事前のオリエンテーリング練習は普段よりスピードを出して走ったり、山の中を早く走る動作を練習したりして。それでも走り出す直前まで緊張しましたが、走り出すと意外と普通にできたのでよかったです。

トーマス・ビュラーのようなガッツポーズを一度してみたかったのでそれができて嬉しかったです。

（以上：藤城公久）

故障を乗り越え、埼玉県女子優勝

（田島利佳）

埼玉県女子３走 田島利佳
ヒザ故障を抱え、痛み止めの注射と痛み止めのクスリで走った。

メンバーを見たら多くの人が今年のWEは埼玉が優勝、そう思っていたでしょう。今年は塩田さんが埼玉へやってきたし、実際私たちも優勝を目標にしていました。しかし実は直前まで黄色信号がともっていたのです。

リレーは各選手がそれぞれ普通に走ればその通りに結果はでるのでしょうが、普通に走れない”何か”が邪魔をすることがあります。例えば当日のレース展開が予想できない事態に陥ったとき”自分が頑張らなくては”そんな思いが気負いとなり大爆発する場合もあるでしょう。

埼玉WEは２年前、優勝は確実と言われながら２位に終わりました。チームの目標や意思確認や役割をきちんとしないまま普通に走れば勝てるよねとそれだけしか話していなかったのです。

そんな失敗があってか、やはりリレーはチーム競技、選手が自分なりの目標、刺激しあって同じ目標を共有することが必要、普通に走れない”何か”が起きてしまうのを排除することが必要だと思い、事前にチームメンバーで目標や自分の走順の役割をきちんとして大会へ臨もうと、去年、今年は取り組みました。それがリレーの面白さでもあり、ワクワクできる時間です。インカレでリレー競技に力を入れていた人たちに全日本リレーでも同じように取り組めば実はチームスピリッツやワクワクする気持ちはいくらでも作り出すことができる、リレーの醍醐味はこういうところなどと感じながらレースを走りたかったのです。

メンバーが決まり、それぞれがスキルアップをしている中、メールを中心に選手、倫也監督、補欠の皆川さんを交えて話を始めました。目標は？ 今のコンディションは？ 走順はどんな感じ？「当日のレース展開を具体的にイメージすることができるならどんな走順でもありだよ。」と倫也監督はいい、それぞれが考えて東日本大会会場で話し合いをしました。この大会でもメンバーは調子よく、W21E、W21Aで上位に入っていました。

目標は？ という問いに、全員が「優勝を狙えるよね。１人１人積極的に走っていこう、じゃあ走順は？」

えみ：１走なら追い込んで走れるし集団の中に入られまで調子は戻っていると思う。１走を走りたい。

高野：今回、積極的に自分が走れるのは２走

田島：どこでもできるよ、悪くはない走りはできると思う。

塩田：どこでもいいけど、ぜひ優勝したい。

と意見が出て走順は金子-高野-田島-塩田とし、目標は「ぶっちぎりで優勝、それぞれ積極的に走る」としました。

金子恵美（埼玉県女子１走）
１走で北海道に先行を許すが、２位のポジジョンにつく。

が、田島が10月末に膝の故障を起こし、トップスピードでは15分しか走れない、タイムはトップタイムからビハインド 10-15 分はあり得ることをメンバーに告げ、ここでもう一度目標と走順を考え直した方がいいのではないかと再び話し合います。ぶっちぎりで優勝はこの調子だとありえない、なんとか４走で競って優勝できるかどうかかもしれない。

続いて金子さんも11月2週目に入り同じく膝の故障を起こします。高野さんはメンバーには言っていませんでしたが、腰を痛めているようでした。

ここまでけが人が出てくると当初のぶっちぎりの優勝はあり得ない、そのイメージを抱いたまま当日レースに臨んでもたぶんグッドパフォーマンスはあり得ない、ここは現実を見据えてきちんともう一度作戦と展開を考え直してレースに臨もうじゃないかと大会 1 週間前まで話をしていました。ひょっとしたら 4 走タッチの時点で集団もしくはトップからはビハインド 10-15 分はあり得るだろうと。

高野由紀（埼玉県女子 3 走）
超ベテランだがそのパフォーマンスはまだまだ衰えていない。

この時私は全く悲観的ではなく、むしろワクワクしていました。こんな最悪の状況でいかに優勝という目標に近づけるレースをするか？ これを具体的に考えてみんなで同じようなイメージを持って臨むだけだけだと思っていました。結局、メンバーも走順も変わらず元の通りでいくことになりました。

3 日前になって塩田さんからは風邪を引いてコンディションが良くないという連絡が入ります。

私のコンディションはかなり絶望的で 1 週間前になっても痛みはあり、山を走っているイメージが全然わかず、ホントに走るのかしら、といった感じで真剣に皆川さんに走ってもらおうと考えていましたが、最終的に 3 日前に病院に行き痛み止めの注射をし、痛み止めの薬まで飲んでレースに臨みました。

2 日前の皆川さんの言葉が印象的です。

「皆様いろいろと大変なことになっていますね。災難というのは，気持ちには関係なく、来るときには来るものですね。（ネガティブにならないとこが素敵です。）コンディションをあわせるのは,相当難しいなと実感します。こんな状況でも。私はきっと埼玉は勝てるような気がしています。結局出る幕はなさそうですが。一緒に走っている気分で応援しています。」

こうやって当日を迎えるわけですが、周りから見ればぶっちぎりの優勝と思えるレース展開ですが、タイムを見てみるとエース塩田さんの38分台は飛び抜けてタイムが良いものの、あとの 3 人は 43 分、47 分、44 分ととりたてて良いわけではなく、実は 2 位東京の 3 人よりも遅い。ただただまとめてレースをしているだけです。いやでもこれがリレーのお手本通りの展開、選手みんなが堅くまとめて結果出す、そういうことなのかもしれません。

周りからは当然と思われた優勝も、実は苦しんで手に入れた目標通りの優勝なのでとても嬉しく思います。

今回は表彰台で東京にやられたので、来年の表彰台のパフォーマンスはアスリートらしく割れた腹筋でも見せるのはどうかしら、じゃあ来年のメンバーセレクションは腹筋の割れ具合できめるのはどう？ なんて言って笑っていました。

来年は地元埼玉での開催なのでぜひ多くの参加者で盛り上げていきたいですね。

塩田美佐（埼玉県女子 4 走）
現日本チャンピョン。今回のリレーでも際立つ速さを見せつけた。

それから今後の大会開催に向けて。もっと多くのチームが参加して競い合うには選手権クラスは女子にしても男子にしても 4 人制というのは限界があるように思えます。

大会そのものを楽しむためにも、レベルアップのためにも競い合う多くのチームがいたほうが面白い。人材が豊富な数県を除いては人数不足です。でも、2,3 人なら集まるという県は多いようです。世界選手権もリレーは 3 人制になりましたし、大会を盛り上げていくためにも多くの参加者が興味を持って自分の県で走ってみたいと思うようになるためにも、チーム人数の変更、得点のルール、表彰対象のルールについてもう一度考え直しても良いのではないでしょうか。そう思いながらじゃあ、自分ができることはなんだろう？ 考えて行動に移すようにしたいと思います。

（田島利佳）

レース中の田島利佳

リレー3 人制の導入されれば、より多くの都道府県からの参加が期待できる。
現在の選手権は複数チームがエントリーできるようになっている。これと3 人制をあわせると、選手層の薄い地域にも、選手層の厚い地域にも対応できるのではないだろうか。